
天馬の翼

ボックル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天馬の翼

【Nコード】

N5252M

【作者名】

ボツクル

【あらすじ】

早乙女家に新人の執事が仕えに来る。早乙女家の一人娘の綾香が、その執事に恋してしまう。

執事为天馬(前書き)

執事为天馬

今日は、この早乙女家に新人の執事が仕えに来る日。

早乙女家には、一人娘の綾香と、今日を持って早乙女家の執事を辞める加藤の二人暮らしをしていた。両親は海外での仕事のため、めったな事では帰ってこない。

早乙女家に一台のリムジンが入ってきた。中からは、新人の執事が降りてきた。

「では、綾香お嬢様 また、何処かでお会いしましょう」

「加藤 今までありがとう さようなら」

「お元気で」

加藤が新人の執事とすれ違い座間に加藤が一言

「ここのお嬢様は、大変だ！」と呟いた。

新人の執事は、立ち止まり、加藤を見た。加藤を乗せたリムジン走り出す瞬間 加藤が笑っていたように見えた。加藤が言っていたことを考えながら綾香の下へ急いだ。

執事は、椅子に座っている綾香の前に立て膝を突いて名を名乗った。

「天草 天馬 と申します」

綾香は、驚いた表情で質問した。

「あ、あなた 歳いくつよ」

「17でございます」

「私と同年！」

綾香は、このことを素直に受け入れてよいのか少し考えた。

「これから、あなたの事は天馬って呼ぶわ」

「どうやら受け入れたらしい。」

「はい」

「まずは、すべての部屋の掃除を下さい！」

「かしこまりました」

早乙女家は、やたらと部屋が多い。だいたい二十部屋ぐらいはある。

「綾香お嬢様と執事の二人暮らしのはずなのになんて部屋の数なんだ

それに、あの執事が言っていたことも気になる」

掃除を一段落終え、綾香の部屋へ行った。

「綾香お嬢様のお部屋はお広いし綺麗ですね。」

「あんたが掃除したんじゃない」

気を効かせようとしたが逆効果だったみたいだ。

綾香の呪い 前編（前書き）

天草 天馬は、早乙女家の執事として仕えることになった。この家の一人娘の綾香と二人で暮らすことになった。

綾香の呪い 前編

天馬と綾香は夕食を済ませた後、綾香はこれからの天馬の部屋へと案内する。

「ここが、あんたの部屋よ！」

天馬は、自分の部屋のすぐ隣の部屋を見た。綾香の部屋だった。

「お嬢様の隣の部屋ですね」

「な、なんか文句あるの」

「いえ 何もございません」

「あたし お風呂に入ってきて来るから、あんたはここでゆっくりしてなさい」

綾香は、逃げるようにバスルームへと向かった。

天馬は、部屋で何をするか迷っていた。部屋には本棚があり、天馬は本を読む事にした。本を探していると、一冊だけタイトルも作者名や筆者名のない本を見つけた。

「なんだこの本は？」

ページをめくると、呪いのかけ方や解き方が載っている。

「不気味な本だ」

天馬は、その本を本棚に戻し別の本を読むことにした。

夜中 天馬は部屋の戸締りを確認して眠りについた。すると、天馬の部屋のドアが開いた。

「誰だ！」

天馬はすぐに目を覚ました。

「天馬？」

「綾香お嬢様じゃないですか！どうされましたか？」

綾香は、天馬の元へゆっくりと近づいた。

「お嬢様？」

「うわぁ」

綾香は天馬に抱き付き、天馬の顔に唇を近づけた。

「お嬢様 何をするおつもりですか」

「キスに決まってるじゃん！後、お嬢様じゃなくて綾香って呼んで」
まったく別人のような綾香を見て、天馬は呪いと言う言葉が浮かんだ。

（まさか！加藤が言っていたのは、呪いのことだったんだ！）

天馬には、綾香を止めるのは難しかった。なぜなら、執事として仕える身であるからだ。天馬は、素直に頬のキスを許した。

「天馬！お休み」

綾香はうれしそうに自分の部屋へと戻って行った。

綾香の呪い 中編（前書き）

綾香は、夜中になると全く別人のようになってしまい天馬にキスをしてしまう。天馬は、自分の部屋にあった呪いの本を見て綾香の呪いを解くと決意する。

綾香の呪い 中編

朝、何事もなく食事をしている綾香見て、天馬は安心した。

（キスしたことは覚えてないみたいだ）

「天馬 あんた車の運転できるの？」

「すいません！免許はまだ持っていません」

「えっ！学校遅刻しちゃうでしょ どうするのよ、このバカ執事
！」

「心配しないでください！ちゃんと交通手段は考えてありますから」

「え！そうだったの ごめんなさい バカって言って」

「いえ お気になさらずに！表に車を用意しました さあ 行きま
しょう」

天馬と綾香は、用意した車に飛び乗った。

「お客さん どこまで？」

「私立 神聖学園まで」

「てっんま」

「はい 何でしょう！」

「何でしょう じゃないわよ 何が車用意しましたよ タクシー呼
んだだけじゃない まったく使えない執事ね」

綾香の愚痴は学校に着くまで続いた。

「綾香！おはよう」

「おはよう！円華」

彼女の名前は、園崎 円華 綾香の親友である。

「綾香 聞いた！」

「何を？」

「今日、転校生が内らのクラスに来るんだってよ」

「へっ で、名前は？」

「確か 天 何とか 天馬 だったわよ」

「そ、そうなんだ」

（あの役立たずの執事め）

「キーン・コーン・カーン・コーン」

ホームルーム開始のチャイムが鳴った。

「ガラッ」

「みんな　席に着け　今日、このクラスに転校生を紹介する
どうぞ！」

「このたび　この神聖学園に転校してきた　天草　天馬　です　よろしく願います」

（あの執事　格好だけいいんだから）

「じゃあ　天草君の席は園崎の隣だ」

「分かりました」

「では、予定変更がありました　本日は抜き打ちテストとスポーツ
テストを行うことになりました」

「え〜〜」

クラス中が絶叫した。

ホームルームが終わるとすぐにテストが配られた。

「始め！」

試験官の合図と同時にみんな一斉に腕が動いた。

神聖学園のテストの結果は実施したその日に結果が分かる珍しい学校なのである。

「キーン・コーン・カーン・コーン」

「やめ！　解答用紙を集める！」

涼しい顔をする天馬に対して真っ青な顔をしている綾香。遠くから見ても一目瞭然。

次は、スポーツテスト。神聖学園の施設の中に、これまた珍しく競技場が存在する。このスポーツテストで天馬は、全種目　学校全体でダントツ一位となった。

帰りのホームルームで抜き打ちテストの結果が返ってきた。綾香の

テストは、全教科赤点ぎりぎりだったのに対して天馬のテストは、全教科ほぼ100点の文句の付けようない点数を取った。

天馬の目立ちすぎる行動は、学校全体で噂になっていった。

ホームルーム終了後、天馬の席の周りには、たくさん女子生徒が集まっていた。それを見ていた綾香は、嫉妬していた。

（何よ） 天馬はあたしの執事なのにあたしだけ見てれいいのよ）
綾香が帰ろうと席を立ったとき、女子生徒の中から荷物を持った天馬が綾香の傍に寄った。

「さあ、お嬢様！ 家に帰りましょう！」

天馬が綾香の手を取ろうとしたとき、集まっていた女子生徒達が

「早乙女さん これは言うことかしら」

「天馬は……天馬はあたしの執事なの！」

「え〜〜〜 そうだったの」

女子生徒達は、驚きつつ納得していった。

「早乙女さんの家すごいお金持ちだから執事ぐらいはいないよね」
女子生徒の一人ある提案をした。

「来週の日曜日、天馬君：じゃなかった 早乙女さんの家に遊びに行つて良い？」

「別に良いわよ！」

「やった〜！ありがとう」

天馬が目的で家に来ることは百も承知だった。そこで綾香は、天馬があたしだけのものだと思せ付けるいい機会だと思ったからである。

家に着くなり綾香は、ドライバーを一人雇わせた。お嬢様である綾香は、タクシーに乗って登下校する屈辱を味わったからだ。

その頃、天馬は昨日見つけた呪いについての本を読んでいた。

「この中にお嬢様の呪いを解く方法があるかも知れない」

本を読み進めると、ページ数のところに黒丸で書かれたページがあった。

「これだ！」

天馬は、綾香を救う手がかりを見つけたが、呪いを解く薬の作り方が書いてあるページは破られており、呪いを別の人に移す方法しか載っていないかった。その方法は、呪いを持つ者とその呪いを受ける者で口付けをすることだった。

綾香の呪い 後編

天馬は、綾香に口付けをするか・しないかで迷っていた。天馬は、早乙女家に仕える身であるためお嬢様に口付けをしてしまうと、綾香の名を汚してしまうからである。だけれども、この呪いがよそ者にばれてしまうと、より名を汚してしまう恐れがある。天馬は、湯に浸かりながら考えていた。すると、浴場の扉が開き綾香が入ってきた。

「てゝんゝまゝ いるの？ いたら返事してゝ」

（まずい！ お嬢様に見つかる前に風呂を出なければ！）

早乙女家の浴場は、銭湯の二倍の広さがあり、天馬はその広さを生かして逃げた。

「よし！扉だ」

天馬は、浴場の扉に手をかけた。しかし

「開かない！ 鍵を閉められた」

「見つけた！」

白い湯気の中から綾香が出てきた。天馬は、左手に鍵を持っていることを確認した。

「お嬢様！ 鍵をお渡し下さい」

「お仕置きが終わるまではダメ」

「お仕置きって何のですか」

「登下校をタクシーでしたことよ」

「すみません！このとおり」

天馬は、頭を床に付けて謝った。

「だ・か・ら お仕置きが終わるまで許さない」

「分かりました！ それでは、何をすれば良いのでしょうか？」

「あたしの背中を流しなさい！」

天馬は、黙り込んでしまった。

「どしたの？」

「お嬢様 お背中をお向け下さい」

「良い子ね〜！」

綾香が背を向けた瞬間に天馬がすさまじい速さで綾香を気絶させる事に成功した。

「お嬢様！ すいません」

天馬は、浴場で倒れている綾香を部屋まで運びベットで寝かせた。

呪いの影響は、知性と運動能力を大幅に奪い取り人の感情を変えてしまう。さらに、記憶を少しなくしてしまうリスクが伴う。それでも天馬は、綾香に口付けをした。

「お嬢様！ お幸せに！」

呪いの力が天馬の体へと転移した。天馬は、綾香の傍で倒れてしまった。綾香は目を覚まし、無事呪いが解かれたが傍にいた天馬を見て「な、何しているのこの執事！ しかも、あたし…裸！？」

綾香は、飛び起きて服を着た。そして、寝ている天馬を椅子に座らせ、ロープで身動きを取れないようにしっかりと縛り上げた。

数時間後、天馬は目を覚ました。

「やっと目が覚めたわね！ この変態執事！ あたしが寝ている隙に何していたか話さない！」

「俺は、何も覚えてない」

「お、俺って！？」

「何言っているんですか？ 俺は、俺ですよ！」

天馬は、まるで別人のように変わってしまった事に綾香は驚いた。

「ど、どうしちゃったのよ 天馬？」

綾香、ロープを解いた。天馬が椅子から立ち上がった瞬間、腰に巻いてあったタオルが落ちかけた。天馬は、慌ててタオルを抑えて自分の部屋へ向かった。綾香は、頭の中が整理できないでいる。

天馬と綾香は、今までのことを整理する。すると、二つ疑問点が浮かんだ。一つは、天馬が別人のようになってしまったこと。もう一

つは、なぜお互い裸だったのか。天馬と綾香は、もつと情報を集めるためにお互いの部屋を調べた。すると、天馬のバックの中からテストの答案用紙とスポーツテストの結果が見つかった。しかし、天馬は疑問に思う。

「どうかした？」

「違う！ これは、俺のじゃない！」

「違うな！ 自分の名前が書いてあるじゃない」

「俺、この問題解けないのにできてるし、足もこんなに速くないと思う！」

綾香は天馬に昨日のテストと50メートルを走らせてみた。結果に大幅な差があった。さらに、天馬は記憶の奥底から呪いの本が頭の中を過った。

「本棚だ！」

天馬は、本棚の中からタイトルのない本を取り出した。天馬は、ページをめくっていくとすべての真相が書かれている黒丸のページにたどり着くことができた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5252m/>

天馬の翼

2010年10月10日15時59分発行